



「波佐見焼」は、くらしの中に生きる焼き物として、
時代のトレンドや生活者のニーズを敏感に感じ取り、
いち早く新しいものづくりに挑戦することで
作り出されるおしゃれで使いやすい陶磁器です。
「波佐見焼って何？」というあなたも、
波佐見焼の魅力に触れてみませんか？



波佐見焼の歴史

History of Hasami

「波佐見焼」はおよそ400年以上の歴史があり、
昔から人々の暮らしに合わせ、変化し続けています。
今も私たちの日常使いの器として進化し続けています。

1680-1860 日常食器の始まり「くらわんか碗」

江戸時代、安価な日用品として気軽に使われていた器は、売り子の掛け声から「くらわんか碗」と呼ばれました。波佐見焼はそのときに大ヒットし、一大生産地として成長していきました。



1590-1610 小さな窯から始まった波佐見焼

下稗木場窯跡から、1590～1610年頃つくられた陶器のやきものが発掘されました。この時代、すでに周辺の肥前地域一帯でやきものが焼かれ、早くから生産地として形成されていたことがわかります。



1900-1980 大ヒット商品が続々登場

昭和時代には、現在まで続く定番の人気柄や、復刻されるデザインなど全国的なヒット商品が生まれました。時代の流行に流されず、定番として愛されるロングライフデザインの商品も多く誕生しました。



1610-1630 磁器の生産開始

「畑ノ原窯跡」で陶器と少数の磁器が発掘されたことから、有田とほぼ同時期に磁器の生産に成功していたことがわかります。



1980-2012 デザインと機能性を追求

ユニバーサルデザインや、収納のしやすさ、小家族対応のものなど、使い手に寄り添うやきものも登場。また、若手デザイナーによるデザイン性の高い商品がさらに波佐見焼ファンの裾野を広げました。



1630-1680 海外への輸出、大量生産化へ

明朝から清朝への政権交代で内乱が続発した中国は、陶磁器の輸出ができなくなります。かわりに肥前のやきものが世界へ輸出されることになり、これを機に波佐見は磁器の一大生産地へと発展します。



2022- よりやさしい製品づくりへ

「より人に優しい器」づくりに取り組んでいます。これからも高品質で安全な製品づくりを続け、日本一の和食器の産地を目指します。

